

0. はじめに

岡山中央ロータリークラブの皆様、いつも気にかけてくださりありがとうございます。前回の提出したレポートを読み返し、少し自分の中で成長を感じました。

下の写真は雪が積もった時のエジンバラ大学（法学部）の校舎です。



1. 学業面での成果

現在は第二学期で、この学期は授業全てがオンラインになりました。二学期の授業の成績評価は主にプレゼンとレポートで、試験こそありませんが修士論文の下準備もあったので毎日なかなか忙しい生活を送っています。取っている授業は、土地利用とマネジメントについて、環境モデルへの導入、環境問題に関する社会運動の三つです。

1.1. 土地利用とマネジメントについて

人間活動が及ぼす土地への影響や、農地・養殖地などの土地の使い方を学びました。先日オンラインでポスター発表があり、クラスメイトの発表をとっても興味深く聞いていました。中には日本のカドミウム流出により起こったイタイイタイ病や日本が輸入しているエビの養殖所のダメージについて発表している人がいて、ひやりともしましたが、同時にクラスメイトの視野の広さに感銘も受けました。私は修士論文のテーマ（詳しくは課題のところへ。）の外来性植物の畜産への影響を調べました。

1.2. 環境モデルへの導入

将来数値モデルを使って環境を学びたい人に向けられた講座です。数値モデルとはどんなものなのか、不確実性とはいったい何なのか、どの程度信頼できるものなのかといったことを中心に学んでいます。課題が多く大変なのですが、コースメイトとコンタクトを取りながら取り組むのもなかなか楽しいです。

1.3. 環境問題に関する社会運動

今学期一番しんどいのはこの授業です。世界で起こっている環境問題に対する社会運動（グリーンピースなど）をその運動ごとの背景ごとに分類してディスカッションするのがメインの授業です。学部頃は単に式を解いたり数値モデルを動かしたりしていて、今までアカデミックなディスカッションに参加したことがなかったので初めは非常に苦労しました。水曜日に授業があるのですが、授業が終わったとたん金曜日にでもなったかのような錯覚を覚えてしまいます。この授業を選んだ理由としては、ディスカッションに挑戦してみたかったこと、いろんな国の人の意見を聞きたいと思ったからです。実際受講してよかったです。グループでのプレゼンがあったのですが、全体でグループが7つある中で、日本の捕鯨に対して働きかけを行っていることで有名な社会運動（シーシェパード）について調べているグループが2つありました。発表全部が終わった後、同じグループだった人とひとしきり日本の捕鯨についてSNSからディスカッションをしていました。この授業を取った時から日本の捕鯨のことが問題になるのは目に見えていたので、あらかじめ準備はしていました。が、グループの中にとっても知見豊かな人がいて、私よりも事情に詳しいのではと疑ってしまうほどでした。彼はバックグラウンドが少し複雑な人で、両親はフィンランド人、米国で幼少期を過ごしてスコットランドに現在住んでいます。一度東京に来た時にミンククジラの刺身のような料理を食べてみたと言っていました。彼の挑戦にも驚きましたが、一番驚いたのは、誰も直接日本を否定していなかったということです。正直非難される覚悟でしたが全くその心配は必要ありませんでした。彼らの内心はわかりませんが、ただ淡々と違いとして受け止めている、そういった印象を持ちました。

2. 受入地区でのロータリーとの関わり、奉仕活動、カウンセラーとの交流

前回のレポートから数回ダンバーロータリークラブのオンライン会議に参加して、現在学んでいることや修士論文のテーマなどについてお話しさせていただく機会がありました。発表の後は毎回質問の嵐で、こんなに興味を持ってくださっているのかと嬉しい限りです。それからコロナ下何か困っていたら全力でサポートするとも言ってくれました。ただ、スコットランドからどんな影響を受けたのかという質問に対して満足のいく返答ができなかったのが、次回呼んでいただいたときにきちんと答えようと思います。奉仕活動は相変わらず参加できない状態です。

ダンバーロータリークラブの会議で会った他のロータリー奨学生と連絡を取り合って、先日直接会ってきました（写真1）。お互いのバックグラウンドのことや、ロータリーがいかに私たちを助けてくれるか、それからこんなに大きな組織に助けてもらえるのはありがたいよね、と感じていたことを話し合いました。



写真1. 左から私、田中真琴（マコ）さん（日本）、Michel Tesfay君（カナダ）。

カナダ出身のマイケル君ですが、ご両親がウガンダ出身だそうで、1991年に起こったジェノサイドの時にカナダへ移ったという話をしてくれました。ただ、今ウガンダは実は一番安全で一番清潔な国になってい

ること、将来ウガンダに家族とともに移ろうかと考えていることを話してくれました。今まで世界のどこかで起こっていることは、文字通り世界のどこかで、という感覚で聞いていましたが、語ってくれる人が目の前にいるということで、これはちゃんと「どこかで」起こっているのだと実感がわいたというか、現実味を帯びたといったような感覚を覚えました。

世界中の人がいろんな経験、考えを持っており、それをこうした形で共有できるのは本当にありがたいことだと思います。

3. 直面した課題、問題点等

これを書いている本日、問題が起きました。主に寮のキッチンの使い方についてです。一応問題は解決したのですが、今は様子見の段階です。

現在コロナの影響で普段シェアしているキッチンなどのスペースは住んでいる寮生が各々助け合って清潔に保つことになっています。私のフラット（キッチンシェアする寮のこと。同じキッチンをシェアする人のことをフラットメイトと呼びます。）には生徒が六人おり（日本1、中国2、米国1、メキシコ1、ギリシア1）、このうちの数名が掃除に積極的ではないと問題になりました。以前から少々話題にはあがっていたのですが、今回はキッチンに持ち込まれた個人のゴミから虫が発生したので大事になりました。発見後、よく掃除をする私ともう二人でキッチンを即座にきれいにしました。そこからフラットメイト全員で話し合ったほうが良いということで会議が開かれました。途中何度か議論がヒートアップしそうだったので、自分の意見も言いつつ最終的に仲裁する役を担っていました。午前11時に虫を発見し、会議が終わったのが午後3時半。長かったです。一人一人役割を決めることでひと段落が付きました。

改めて全員が顔を突き合わせて開く会議の良さを知りました。以前はSNSでメッセージのやり取りで済ませることが多く、あまり真剣にとらえていなかったフラットメイトも納得してくれるようになりました。キッチンの掃除以外の問題や個人の悩みなども解決することができたと思います。思いがけないトラブルでしたが、非常にいい経験でした。

4. 今後の課題、目標

課題が二つあります。

一つ目は英会話についてです。年末以来、素敵な人たちと関わる中で、もっとこの人たちと話したいと思うようになりました。具体的で身近な日常会話には差しさわりのないのですが、母国語で話せるような抽象的なことや冗談を言うことはまだうまくありません。もっといろんな話をしたい。この気持ちが今とても強いので、お別れの時に号泣できるくらい仲良くなることを目標に、日々精進していきたいと思っています。

二つ目は修士論文についてです。テーマを南アフリカ共和国の外来性植物が畜産へ及ぼす影響を調べようと考えています。南アフリカ共和国にいらっしゃる指導教官に企画書を提出すると、イントロダクションがとても薄い指摘を受けました。落ち込むこともあります。とても具体的な指示をくださる方なのでどんどん吸収していこうと思います。